

2019年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 <講義録3回目>

<<講座のメインテーマ>>

防災・減災の取り組み

その具体的な進め方！

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2019年10月31日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半：『シミュレーションで学ぶ災害時の要配慮者トリアージ』

講師：小原 真理子 氏(清泉女学院大学看護学部国際・災害看護学教授)

・後半：『もしもに備える、いつもに生かす

~男女共同参画で身近な防災・減災を見直そう』

講師：常光 明子 氏(男女共同参画センター横浜北館長)



講義の様子



講師：小原真理子氏

《助かった命を大切にしよう！》

- 避難生活に耐えられる様に日々健康に留意！
  - 『災害関連死』対策として大きな要因になるのは、「避難環境の改善(写真①)」、「病院機能の維持」、「移動の回避あるいは移動時の疲労軽減」。
- ⇒精神的ショック、環境悪化、トイレがマ、ころぶと大変、食べない/飲まない→病気に罹ったり、持病が悪化！
- 災害時亜急性期(4日~3週間) 迄に災害関連死が多い。



司会：高松清美さん

<<要配慮者トリアージを映像で体験！>>

- 避難所の安全確保と要配慮者の部屋の確保、そして割り当て
- 「緊急を要する医療・介護・保護等の特別な配慮が必要ですか？」(写真②)
  - ー『はい』⇒要配慮者トリアージ 受付へ
  - ー『いいえ』⇒一般避難所(体育館など)へ
- 短時間でトリアージ区分を決定し、避難部屋を割り当てる。

『要配慮者トリアージ区分』

- 1:病院への移動が必要な人⇒救護室
- 2:福祉避難所への移動が必要な人 ⇒福祉避難室
- 3:一般の人と分ける配慮が必要な人 ⇒小部屋
- 4:学校体育館等に滞在可能な人 ⇒体育館など

<<判断基準の運用を地域で考えて行こう！>>



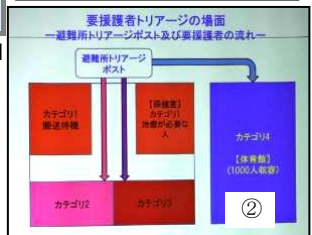
段ボールベッドの配置と作製 最終的には250個



講師：常光明子氏

<<「お互いさま」の安心づくり>>

- 阪神淡路大震災以降の震災での貴重な実感を経て、被災地での男女別のニーズに対応していくことの大切さについて理解が進んできている。熊本地震の避難所では男女別トイレ、運営体制への女性の参画、女性・子どもへの安全安心への配慮(写真③)等の取組が実施された。
- 個々の課題を皆で共有し、社会化していく。横浜市では、男女のニーズの違いに配慮した『地域防災拠点』開設運営のポスター等(「スターキット」)を配布し、地域に展開。



<<『わたしの防災キット』の活用>>

一軒一軒安心なところにしていく！

<<地域での女性の担い手を発掘！>>

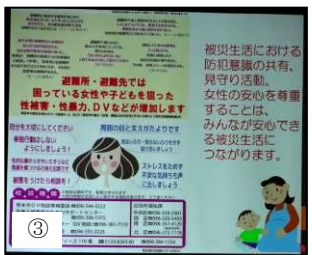
お互いさまを育む秘訣は「共感力」と「巻き込み力」。

日頃から家庭で、地域で不安や困りごとを話せる環境に。

<<防災は、普段の暮らし方の延長に！>>

大事だとわかっているけどやらないことが多い。今日から出来ること始めましょう！

- 帰宅したら非常持出袋を開いてみる。
- スマホは必ず毎日、充電する。
- 地域の行事に参加する。



第3回アイスブレイク出題 『防災めぐり・子ども版』から

●強い雨が降り続けている。市(町)からの避難の呼びかけは、だんだん強くなっているけれど、うちは丈夫そうなので、一番強い呼びかけになるまで待つことにした。

あなたの意見は？『それは良い』か『別の考えがある』のどちら。

早川雅子さん

